



## 「有終の美を飾る」

3月6日(土)卒業式が挙行政され、264名の3年生が立派に巣立っていきましました。毎年大崎高校の卒業式は、卒業生の誰もが堂々として、凛とした態度で臨んでおり、誰に見せても自慢できると思っていたのですが、今年は特に素晴らしいと感じました。このコロナ渦で、思うように高校生活を送ることができず、3学期などは殆ど登校することもできなかった中、3年生は目標を失って乱れることなく、堂々とした立ち居振る舞いで、最後まで、「自信と誇り」をもって大崎生を演じ切ってくれました。やはりそれができたのは、普段から自分の目標をしっかりと見据えて、一つ一つ積み重ねやり続けてきた結果です。このような卒業式を挙行政できることが、大崎高校の強みであり誇りであると思います。正にこれこそが『有終の美を飾る』ということではないでしょうか。いよいよ、次は2年生の番です。すばらし卒業式が迎えられるよう、この1年、今できることに精一杯頑張っしてほしいと思います。

校長 豊岡 耕一郎



## 「学び続けることの大切さ」

今の変化の激しい現代社会を生き抜いていくためには、大人も子供の学び続けることが大切であると言われていいます。学ぶといっても、ただ単に答えを暗記するだけの知識を習得するのではなく、明確な答えがない(分からない)問題に対してどのように課題解決に向けて取り組むことができるのかなのです。このよく言われる答えのない問題とは、正解が複数あつて決められない場合とか、究極の選択をする問題、例えばボートでの救出問題(誰を助けますかみたいな)などを指しているわけではありません。もっと身近な問題に対して、その問題の本質や課題を徹底的に突き詰めて考え、みんなと議論を重ね、合意形成をしながら自分なりの答えを導き出す力(課題解決能力)が求められているのです。そのためには、観察力や分析力、思考力、粘り強さ、コミュニケーション力などが必要になります。例えば会社に入って、この商品のポスターを作ると命令された場合、上司に言われた通りに作成するとか他所からのアイデアを持ってくるとかだと単なる作業です。そうではなく、商品の利点や価値を突き詰め、市場調査をして、仲間と議論しながら試行錯誤を繰り返して自分なりのポスターを作り上げるといった作業プロセスを求められているのです。

さて、このような力を身に付けなくてはならない状況において、『何故勉強が必要なのか』というのを改めて皆さんに問いたい。内申点を上げたいとか、大学に入りたいとかなど目先の目的も理由の一つではありますが、時間が経てば忘れるし、目的を達成したら学びはそこで終わりです。

勉強することによって新しい知識を吸収し、今までわからなかった世の中の仕組みや考え方を習得し、粘り強く問題を考え続ける姿勢と時間を管理する能力を養い、友達と切磋琢磨しながら学びの質を深めていくことなどが身に付けることができ、それが後の人生の大きな財産となるのです。

自分の将来を豊かなものにし、周りの人を幸せにすることができるようになるためには学び続けるしかないのです。知っていれば、助けることができるのに、知らないから何の力にもなれない。幸せになれるチャンスは、いっぱいあるのにそれに気が付く頭がないからなれないのです。

いずれ皆さんも家庭を持ち、自分の子供に『何故勉強が必要なのか』と問われるときが必ず来ます。その時、ちゃんと答えられる大人になってください。